大本山永平寺：金毘羅大権現の概要

金毘羅堂は永平寺の境にある小さなお堂である。 船や海にまつわる金毘羅大権現を祀っている。 このお堂は、永平寺の創始者である道元禅師（1200–1253）が中国で学んだ後、無事に帰国したことを感謝するために建てられた。

金毘羅大権現は、仏教と日本古来の神道の要素が融合として存在する神仏習合の神である。 純粋な仏教の経典では、金毘羅は薬師如来を守る12神将の一人として知られている。 時がたつにつれて、金毘羅は香川県の象頭山琴平で祀られている神道の大物主神と水龍になった。金刀比羅宮と呼ばれる琴平宮に今も本殿が残っている。 この神仏習合の慣習は、明治政府が仏教と神道の明確な区別を義務付けた明治時代（1868–1912）までかなり一般的であった。

毎年7月9日、永平寺前の近隣住民が金毘羅堂に集まり、お香や蝋燭を灯しながら、お寺の繁栄、無病息災、諸願成就を祈願してお経を唱和する。 その後、僧侶は住民と合流し、寺院の典座（てんぞ）が調理した食事を共にする。これは、お寺と民衆の親密なつながりがうかがえる。